

 Roland

# DG Value News

第37期のご報告

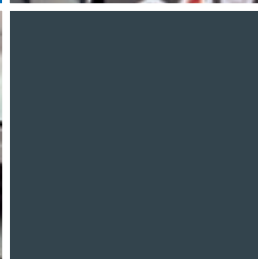
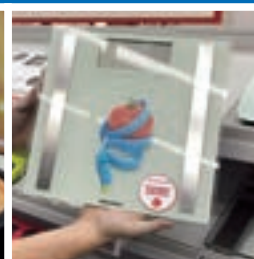
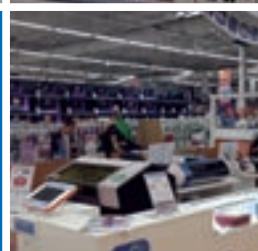
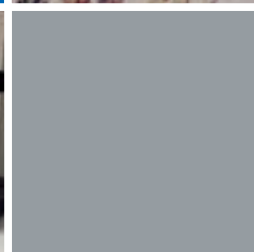
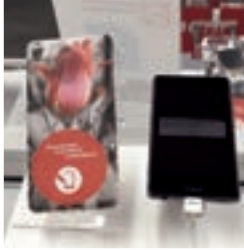
2017年1月1日～2017年12月31日

特集

## 成長分野に向けた 取り組み

ローランド ディー.ジー.株式会社

証券コード 6789



# 一目で分かるローランド ディー.ジー.

## 企業理念 | Corporate Philosophies

### ● ミッション

デジタル技術の活用で、より豊かな社会を実現する

### ● ビジョン

イメージをカタチに

### ● 企業スローガン

◆ **創造**の喜びを世界にひろめよう

◆ **BIGGEST**より**BEST**になろう

◆ **共感**を呼ぶ企業にしよう

## ローランド ディー.ジー.の強み

当社グループのネットワークを活かした

**グローバル展開** (2017年12月31日現在)

展開する国と地域

200以上

海外連結子会社

16社



購入前から購入後まで  
フルにサポート

## 3つの「R」



ローランド ディー.ジー.  
クリエイティブセンター



ビジネス提案



Roland DG Academy

ローランド ディー.ジー.  
アカデミー



教育・トレーニング



Roland DG Care

ローランド ディー.ジー.  
ケア



サポート

多品種少量、オンデマンドを追求する  
当社独自の生産システム

## D-Shop (ディー・ショップ)

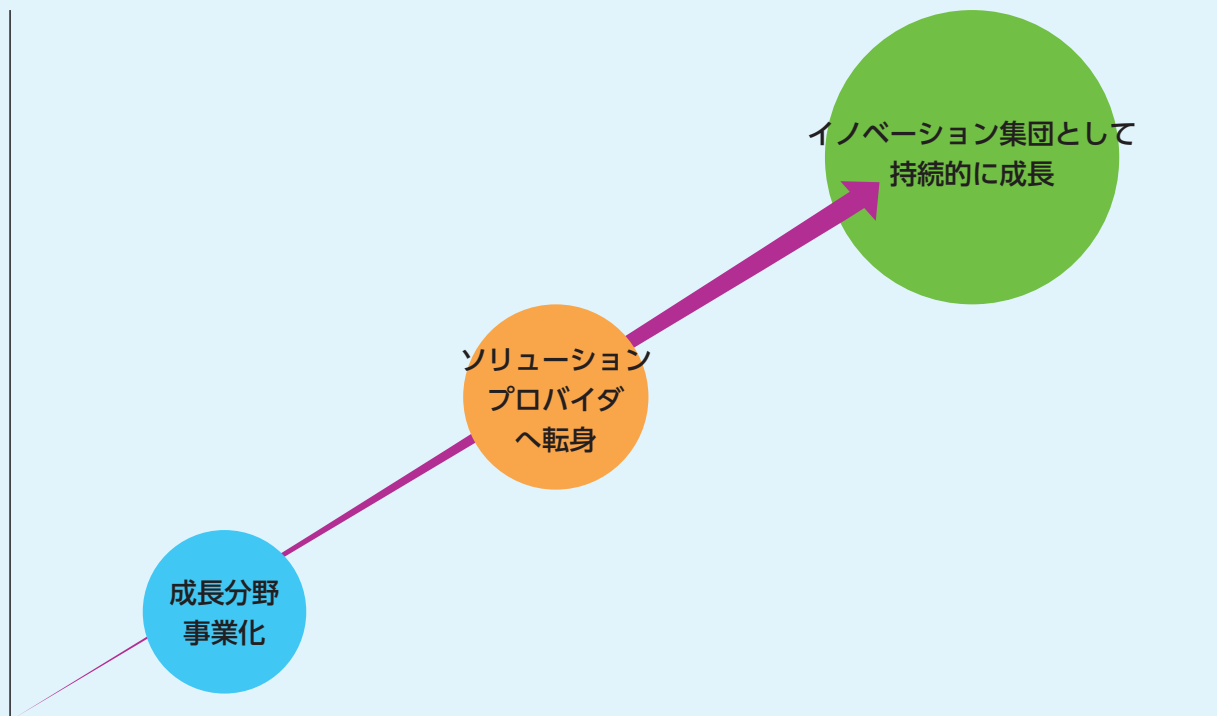


## 中期経営計画 〈2016 - 2020年〉

# GrowthOne(グロースワン)

## イノベーションによる持続的成長

### 持続的成長へのロードマップ



本中期経営計画では、社会や産業の変化に適合した製品やソリューションを提供することによりイノベーションを起こし、持続的成長を図ってまいります。そのために「成長分野の事業化の加速」「ソリューションプロバイダへの転身」「イノベーション集団への転身」という3つの重点課題に取り組んでいます。

## 株主の皆さまへ

## ごあいさつ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第37期(2017年1月1日～2017年12月31日)が終了いたしましたので、事業の概要および連結決算のご報告を申し上げます。

2018年3月

代表取締役社長

藤岡秀則



## ■ 第37期の概況

## 成長分野の事業化に向けて積極的に活動した結果、3D事業が拡大しました。

当期における世界経済は先進国を中心に緩やかな回復基調が続くとともに、新興国においても景気の持ち直しの動きが見られました。

このような状況の中、当社グループでは、2016年度より5ヶ年の中期経営計画を策定し、取り組んでおります。この中期経営計画では、「GrowthOne(グロースワン) イノベーションによる持続的成長」を基本方針に掲げ、①成長分野の事業化の加速、②ソリューションプロバイダへの転身、③イノベーション集団への転身、という3つの重点課題にチャレンジしております。

当期は、3Dものづくり市場向けの3次元切削加工機やデンタル(歯科医療)市場向け加工機など、当社グループの3D事業を担う「DGSHAPE(ディージーシェイプ)株式会社」が営業を開始し、新たな成長分野であるデンタル市場を焦点に事業の拡大に向けた活動を推進しております。プリンターにおいては、これまでの主力市場であるサイン(広告・看板製作)市場に加え

オリジナルグッズなどの製作を行うリテイル市場の開拓に注力いたしました。

このように、「成長分野の事業化の加速」に向けた積極的な事業活動を行った結果、主としてデンタル市場や3Dものづくり市場の3D事業が拡大しましたが、サイン市場向けプリンターの販売が減少した影響により、売上高は減収となりました。また、売上原価率が主に販売単価の下落により前期に比べて悪化しました。販売費及び一般管理費は、人件費などの減少により前期を下回りましたが、売上高に対する比率は前期並みの水

## 第37期 連結業績

	第37期連結業績	前期比
売上高	435億73百万円	1.2%減
営業利益	38億53百万円	11.6%減
経常利益	38億4百万円	7.3%減
親会社株主に帰属する 当期純利益	19億18百万円	29.1%減

※ 当期における主要通貨の為替レート(2017年1月～2017年12月)の平均レートは、112.20円/米ドル(前期108.88円)、126.70円/ユーロ(前期120.40円)でした。

準にとどまりました。これらの結果、営業利益、経常利益ともに減益となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、米国特許侵害訴訟の和解金を特別損失に計上したことで、減益となりました。

## ■ 第38期 連結業績予想

**リテイル市場の開拓と3D事業の拡大に取り組みますが、売上高は横ばい、減益の決算を見込んでおります。**

次期の連結業績予想につきましては、プリンターの主力市場であるサイン市場は引き続き厳しい競争環境が続くと思われませんが、リテイル市場などの開拓と、デンタル市場を焦点に3D事業の拡大に取り組むことで、売上高は前期並みとなる見込みです。利益面では、技術力強化のための研究開発費の増加に加え、成長分野への活動強化にともなう経費が増加することにより、営業利益、経常利益は減益となる見通しです。次期の親会社株主に帰属する当期純利益は、当期に大きなマイナス要因として米国特許侵害訴訟の和解金による特別損失を計上したため、増益となる見込みです。

### 第38期 連結業績予想

	第38期 連結業績予想	当期比
売上高	436億円	0.1%増
営業利益	34億円	11.8%減
経常利益	32億円	15.9%減
親会社株主に帰属する 当期純利益	22億円	14.7%増

## ■ 株主還元について

**業績に応じた利益還元を基本方針とし、事業展開を総合的に勘案しながら決定してまいります。**

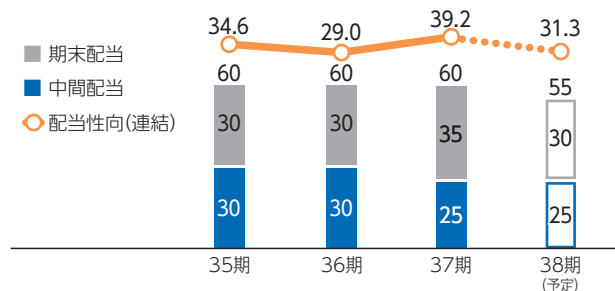
当社は株主の皆さまに対する利益還元を最優先と考え、業績に応じた利益還元を配当の基本方針としております。具体的には連結利益に対する配当性向30%を念頭に、事業展開を総合的に勘案の上、決定しております。当期の配当につきましては、期末の配当を35円、年間では60円とし、配当の支払いを2018年3月26日より開始いたします。なお、訴訟の和解金など当期に起因しない特殊要因を当期の配当金の算定根拠から除いたため、年間連結利益に対する配当性向は39.2%となります。

次期の配当につきましては、中間25円、期末30円、年間では5円減配の55円を予定しております。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

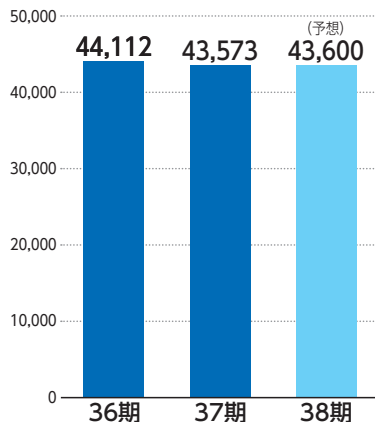
### 一株当たり配当金／配当性向

(単位：円／%)

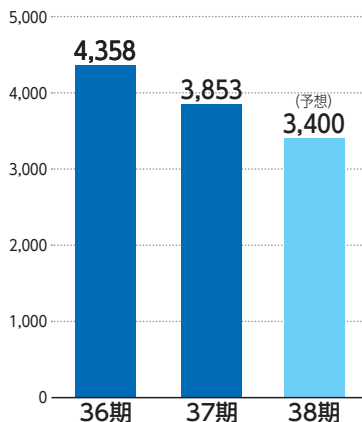


## 連結損益計算書の概要および連結業績予想 (単位：百万円)

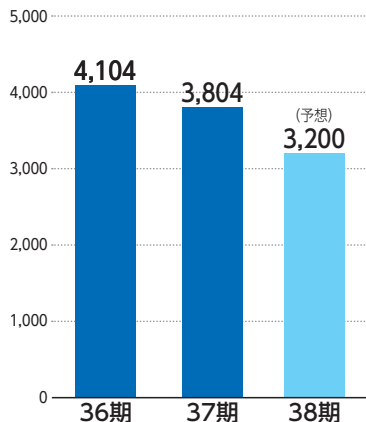
### 売上高



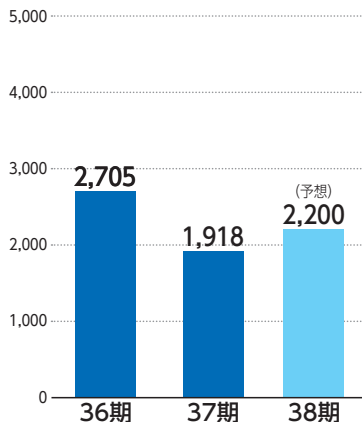
### 営業利益



### 経常利益



### 親会社株主に帰属する当期純利益



## POINT

### 連結損益計算書

売上高は、プリンターの販売減少などにより、前期比1.2%減の435億73百万円となりました。売上原価率は、販売単価の下落などにより前期比1.0ポイント上昇しました。販売費及び一般管理費は、前期を下回りましたが、売上高に対する比率は前期並みの水準にとどまりました。これらの結果、営業利益は、前期比11.6%減の38億53百万円となり、経常利益は、前期比7.3%減の38億4百万円となりました。また、米国特許侵害訴訟の和解金を特別損失に計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比29.1%減の19億18百万円となりました。

## POINT

### 連結業績予想

各地における地政学的リスクの高まりや、米国の政策動向の懸念はあるものの、先進国を中心とした景気回復の動きが続くと思われます。当社では引き続き成長分野の事業化の加速に取り組みますが、売上高は前期並み、利益面は営業利益、経常利益が減益となる一方、親会社株主に帰属する当期純利益は増益の見込みです。

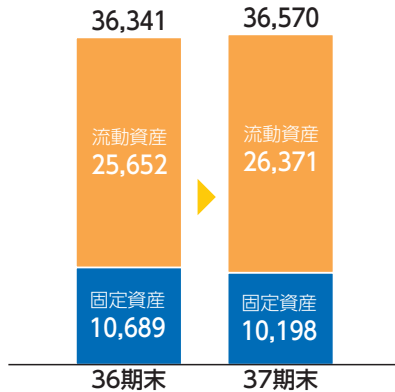
(主要通貨の想定為替レートは

1米ドル=110円、1ユーロ=130円)

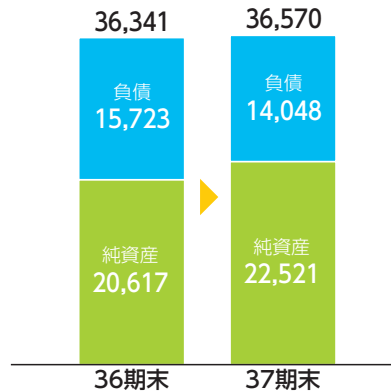
## 連結貸借対照表の概要

(単位：百万円)

### 資産の部



### 負債・純資産の部



### POINT

#### 連結貸借対照表

流動資産では、未収入金等のその他が11億86百万円増加し、受取手形及び売掛金が2億97百万円減少しました。固定資産では、特に大きな変動はありませんでした。

流動負債では、特に大きな変動はありませんでした。固定負債では、長期借入金が返済により14億40百万円減少しました。

純資産は、当期の業績などにより19億4百万円増加しました。

### POINT

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権やたな卸資産が減少したことなどが増加要因となりました。主な減少要因として和解金を13億41百万円支払ったことなどにより、前期に比べ29億22百万円減少しました。

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

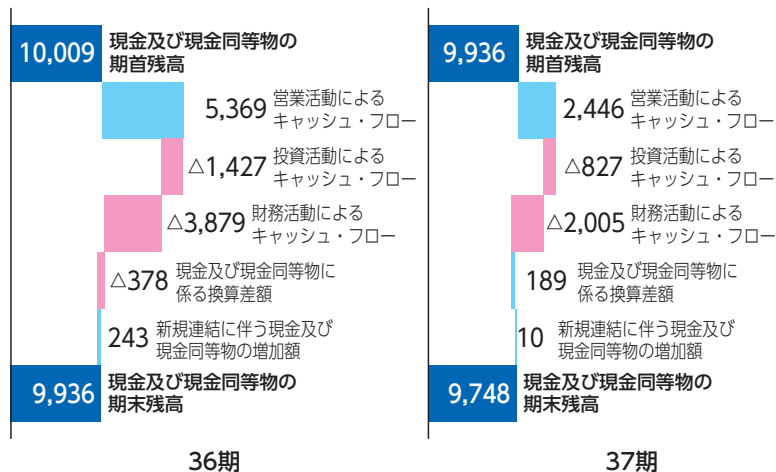
有形・無形固定資産の取得が減少したことなどにより、前期と比べ支出額は減少しました。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

前期は、自己株式の取得を目的とした長期借入れによる収入があった一方で、自己株式の取得代金の支出や長期借入金の返済による支出がありました。当期は、長期借入金の返済などによる支出がありましたが、前期と比べ支出額は減少しました。

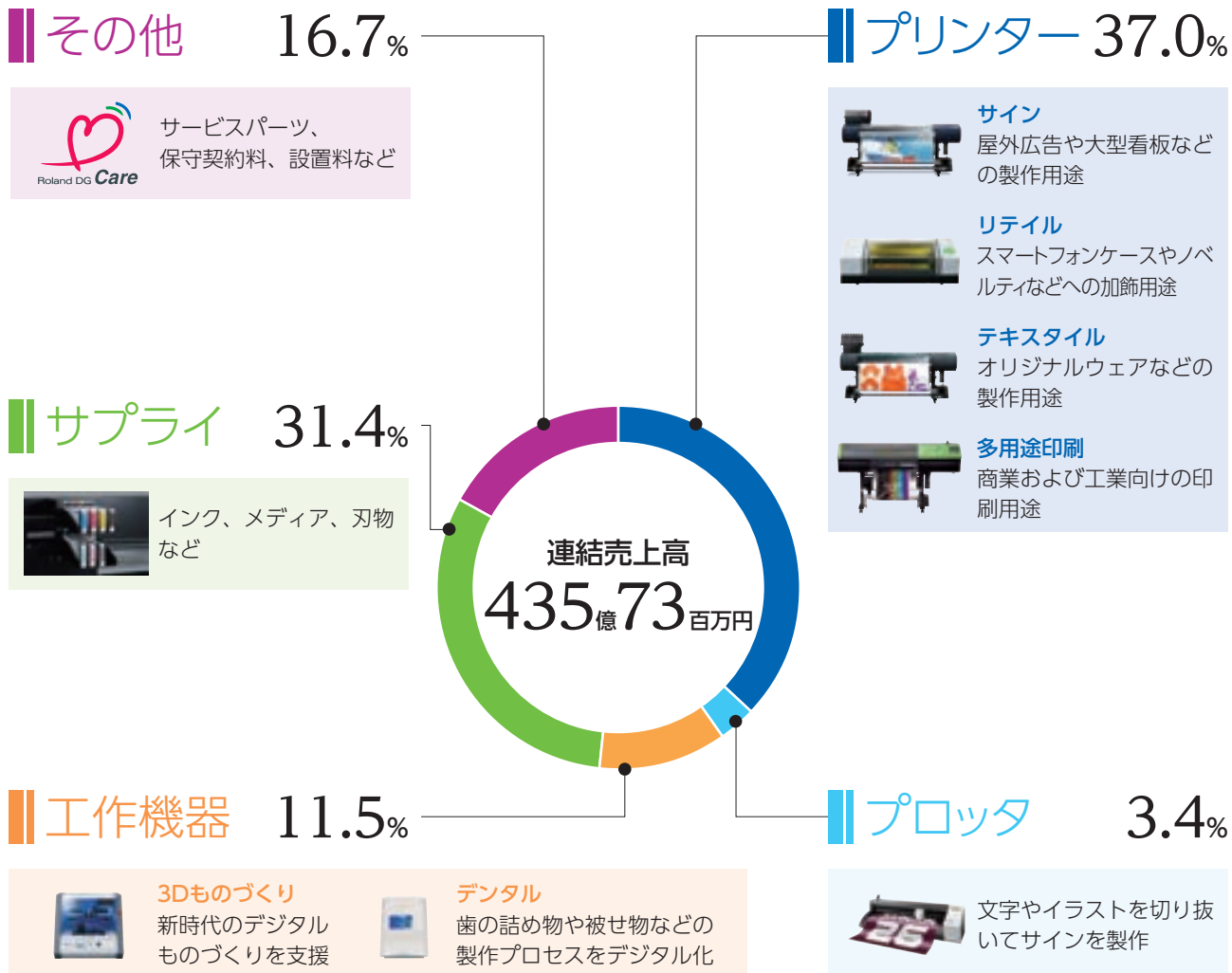
## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



## 事業の概況(品目別)

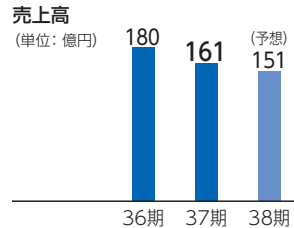
### 売上高構成比(第37期)





## プリンター

売上高  
**161億10百万円**  
 前期比 10.6%減 ↓



### POINT

- 主力のサイン市場向け製品が伸び悩む
- リテイル市場向け小型UVプリンターの新製品が堅調

### サイン/リテイル

従来からの主力市場であるサイン市場では、前期に投入した低溶剤系プリンターの新世代モデルTrueVIS(トゥルービズ)シリーズVG-640/540およびSG-540/300の販売が堅調に推移しましたが、市場の成熟化に加えて大手参入による競争環境の激化を背景に、高価格から低価格へ市場ニーズの変化が続いており、高価格帯機種を中心に低調な販売となりました。また、当期2月に発売した小型UVプリンターの新製品は堅調だったものの、既存モデルの販売減少が影響し、UVプリンターの売上が減少しました。これ



らプリンターの販売減少を受けて、当第4四半期には、シェアの維持・拡大のため販売促進キャンペーンを展開してプリンターの販売回復に取り組み成果を上げることができたものの、減少幅をカバーするには至りませんでした。

### テキスタイル/多用途印刷

オリジナルウェアなどを製作するテキスタイル分野向けに提案している昇華転写プリンターは、中南米で販売が増加しました。また、商業印刷や工業印刷といった多用途印刷分野向けに提案している多様な材料への直接印刷が可能なUVプリンターは、日本における商品パッケージ試作用途で増加しました。販売拠点の地域に密着したマーケティング活動から得られた用途や市場ニーズを本社の開発部門にインプットするサイクルにより、さまざまな用途を発掘してまいります。

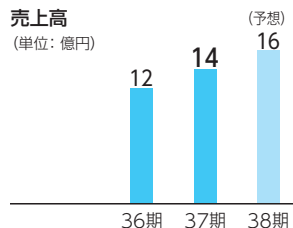
## 事業の概況(品目別)

## プロッタ

売上高

14億91百万円

前期比 15.4%増 ▲



## POINT

- サイン市場向けカッティングマシンの販売が増加

当期の3月から4月にかけて発売した新製品GR-640/540/420を含むサイン市場向けのカッティングマシンの販売が先進国を中心に増加し、前期を上回りました。

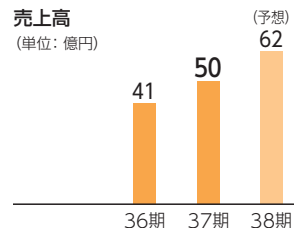


## 工作機器

売上高

50億5百万円

前期比 19.5%増 ▲



## POINT

- 3次元切削加工機とデンタル加工機の新製品が好調

## 3Dものづくり

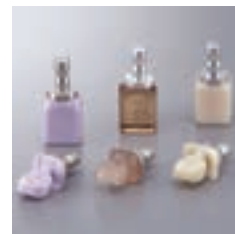
前期10月に発売した3次元切削加工機の新製品MDX-50が、製造業における試作用途や教育機関などで導入され、好調な販売を持続しました。



## デンタル

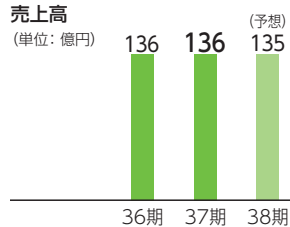
当期3月に発売したデンタル加工機の新製品DWX-52DCが、日本、欧米など先進国において生産性を求める歯科技工所に受け入れられ、好調に推移しました。

また、当期4月には、3Dものづくりやデンタルなどの3D事業を担うDGSHAPE株式会社が営業を開始しました。当社が培ってきたデジタル技術やものづくりのノウハウを活かして、デジタル化の新たな潮流に対応したソリューションの提供を目指します。



## サプライ

売上高  
**136億76**百万円  
 前期比 **0.4%増** ↑



### POINT

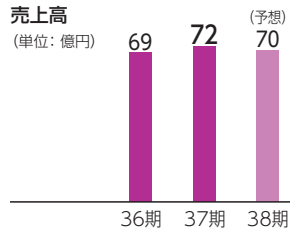
#### ● UVインクやテキスタイルインクが伸長

サイン市場向けプリンターのインクが伸び悩みましたが、UVプリンターやテキスタイル用プリンターのインクが伸長しました。



## その他

売上高  
**72億88**百万円  
 前期比 **4.4%増** ↑



### POINT

#### ● サービスパーツが伸長

サービスパーツの売上が堅調に推移し、前期を上回りました。



### デンタル加工機DWX-52DCが、アメリカ歯科技工業界団体が選出する「WOW! Award 2017」を受賞

当社グループの3D事業を担うDGSHAPE株式会社のデンタル加工機DWX-52DCが、アメリカの歯科技工業界向け専門誌「Journal of Dental Technology」が主催する「WOW! Award 2017」を受賞いたしました。「WOW! Award」は、「歯科技工の作業時間の短縮」「投資コストの削減」「業務品質の向上」という観点で特に優れた製品やサービスに対し授与されるものです。アメリカの歯科技工業界団体に所属する著名な歯科技工士および歯科技工所のオーナーが審査し、多くのノミネート製品・サービスの中から、本年度はDWX-52DCを含む5製品が選ばれました。

#### VOICE

#### 取締役 3D事業担当

田部 耕平

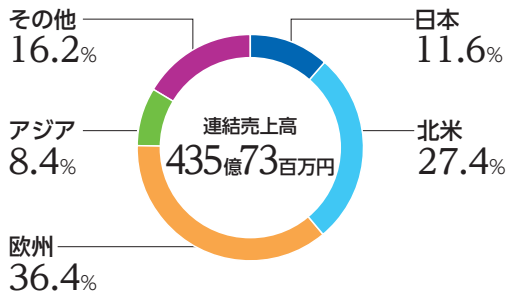
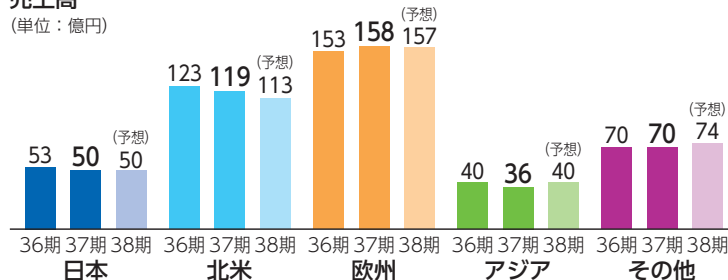
DWX-52DCは、さまざまな自動機能を搭載したことで、歯科技工業務の効率化による業務負荷の軽減と大幅な生産性向上を実現しました。今回の受賞では、これらの製品特長を高く評価いただくことができました。

DGSHAPE株式会社では、今後も3D(3次元)デジタル加工の技術やノウハウを活用しながら、デジタル化の新たな潮流に対応したものづくりソリューションを提供することで、社会やテクノロジーの進化と現実の人間の生活との間に生じるギャップを埋め、より豊かな社会の実現を目指してまいります。



## 事業の概況(地域別)

売上高構成比(第37期)

売上高  
(単位: 億円)

## POINT

- 日本では、健康保険適用範囲の拡大を受け、デンタル加工機の既存機種が伸長
- 北米、欧州では、デンタル加工機をはじめとする工作機器が伸長
- アジアでは、中国、ASEANなどでプリンターが伸び悩む

## 日本 50億43百万円 前期比 4.9%減 ↓

工作機器では、3次元切削加工機の新製品が製造業での試作用途や教育機関などで好調に推移しました。また、デンタル加工機の新製品が順調に推移するとともに、当第4四半期には、保険適用範囲の拡大を受けて、既存機種の販売が伸びました。プリンターでは、印刷幅30インチから54インチのUVプリンターがパッケージ用途で増加しましたが、リテイル市場向けの小型UVプリンターやサイン市場向けプリンターが減少しました。

## 北米 119億30百万円 前期比 3.5%減 ↓

工作機器では、デンタル加工機の新製品が、主に生産性を求める中規模クラスの歯科技工所に向けて好調な販売となりました。また、3次元切削加工機の新製品は、デザイン試作などの用途で好調に推移しました。プリンターでは、リテイル市場の開拓が徐々に進んだ結果、小型UVプリンターは前期を上回りましたが、サイン市場向けプリンターが減少しました。

## 欧州 158億78百万円 前期比 3.6%増 ↑

プリンターでは、サイン市場向けプリンターや小型UVプリンターなどの主力機種が低調でしたが、工作機器では、デンタル加工機の新製品が好調に推移するとともに、3次元切削加工機や金属素材に写真やイラスト、文字などをマーキングできるメタルプリンターの販売が増加しました。

## アジア 36億81百万円 前期比 10.1%減 ↓

中国では、工作機器の販売が好調に推移しましたが、サイン市場向けプリンターは低迷し、サービスパーツの売上が大きく減少しました。韓国では、サイン市場向けプリンターが堅調に推移し、デンタル加工機は新たな販売チャネルを開拓したことで増加しました。ASEAN地域では売上構成比の大きいサイン市場向けプリンターが低迷しました。

## その他 70億39百万円 前期比 0.3%増 ↑

オーストラリアでは、3次元切削加工機の販売が好調に推移しました。中南米地域では、サイン市場向けプリンターが減少しましたが、小型UVプリンターやテキスタイル用プリンター、デンタル加工機の販売が増加しました。

## タイ工場が5Sアワードで ダイヤモンド賞を受賞！

当社の製造子会社Roland Digital Group (Thailand) Ltd.(タイ工場)が、泰日経済技術振興会が主催するThailand 5S Award 2017でダイヤモンド賞を受賞いたしました。5Sとは、「整理・整頓・清掃・清潔・躰」をあらわす職場環境・文化の改善・改革活動を言います。

タイ工場では、本社都田工場と同様、当社独自の生産システム「D-Shop(ディー・ショップ)Q」を導入しています。D-Shopには品質管理に関するさまざまな仕掛けが組み込まれていますが、現場で組み立てを行なっているのは人です。タイ工場では、言葉の問題や文化の違いなど海外ならではの課題を抱えていました。そのような背景の中、品質の基本となる5S活動を2015年より開始しました。工場、オフィスの環境整備、従業員のモラル向上を図り、取り組みから1年を迎えた2016年に同Awardに初エントリーで金賞、翌2017年には最高賞となるダイヤモンド賞を受賞いたしました。



Roland Digital Group (Thailand) Ltd.では、2015年より社長からのトップダウンで生産工程の品質向上を目的に5S活動を開始しました。この活動を通じ、製品品質だけでなく社員同士のコミュニケーションが劇的に改善されたことに大変驚いています。5S活動を徹底するためには、自社流の定義が必要です。5S活動の方針、目的、測定方法などを現場のスタッフ全員が共有し、継続的に実行できたことが今回の受賞に繋がったと思います。今後の取り組みとしては5S活動を軸に、QCD(品質、コスト、納期)の改善を続けるとともに、5S、改善、労働安全を融合していくことで、職場環境の向上を図ってまいります。



### D-Shop(ディー・ショップ)

当社が独自に開発した、一人一台生産システム。作業者は、パソコンのディスプレイに表示された組み立て作業図を確認しながら、工程ごとに必要な部品を自動供給する回転ラックから部品を取り出し、指示された電気ドライバーを使用して製品を組み立てていきます。

# 成長分野に向けた取り組み

当社グループでは、成長分野の事業化の加速を重点課題の一つとして取り組んでおります。当期は、主力市場であるサイン市場の成熟化に加え、大手メーカーの参入による競争激化によりプリンターの売上が減少した一方で、リテイル向けUVプリンターやデンタル加工機の拡大に注力しました。2018年度も引き続き、「リテイル」や「デンタル」に経営資源を投入し、主力分野の転換を図っていくためのスタートの年と位置づけ、新たな成長を目指してまいります。今回の特集では、これら成長分野への取り組み内容を紹介するとともに、リテイル市場の開拓に向けて活躍する社員に活動状況や意気込みを聞きました。



当社は、消費者ニーズの多様化とスマートフォンの普及などを背景に、UVプリンターによるスマートフォンケースへの加飾印刷用途を確立し、小規模な工場を持つ業者から小売店舗まで、幅広い顧客層に受け入れられてきました。これを契機に、小売店舗の店頭で加飾印刷サービスを行っている市場を「リテイル」と括り、UVプリンター、低溶剤プリンター、メタルプリンターなどのデスクトップ製品を組み合わせたオリジナルグッズ製作のソリューション提案を行ってまいりました。今後は最終消費者である個人に焦点を当て、「さまざまなコトをカタチにしたい」「表現したい」「思い出として残したい」などの想いやニーズを掴み、それらを実現するソリューションとして当社の総合力を発揮したビジネス提案により、人々の想いやイメージをカタチにする事業として推進してまいります。



DGSHAPE株式会社では、主に歯科技工所向けに歯の被せ物や詰め物などを製作するデンタル加工機を提供する「デンタル」、病院内で医療器具のトレーサビリティを管理する「メディカル」、3Dデータを活用した「3Dものづくり」、これら3つの分野に取り組んでいます。

「デンタル」においては、当期は、生産性が飛躍的に向上したデンタル加工機の新製品を投入し、中規模から大規模の歯科技工所での導入が進みました。さらに、入れ歯製作の工程で使用する3Dプリンターを発売し、新たなプロセスのデジタル化を推進しました。販売面では、主要先進国での販売増に加え、新興国の販路開拓が進んだことで、全ての地域で売上が増加しました。今後も業界全体のデジタル化需要を取り込むとともに、歯科クリニックに向けた販路拡大と新興国の開拓により、一層の事業成長を図ってまいります。

## 新たな成長分野の開拓に向けて活躍する社員に聞きました

当社では、小売店舗の店頭でカスタマイズやパーソナライズサービスを提供する市場を「リテイル市場」と定義しております。リテイル市場開拓のグローバル展開を推進する社員に取り組み内容や意気込みを聞きました。

R&D本部 新事業企画室

なるせ ひろとし  
成瀬 寛俊



**Q** 現在の仕事内容を教えてください。

**A** 新事業企画室では、市場が本当に必要としているものを見つけ出し、ニーズを理解した上で、消費者目線で世の中が求めているモノやコトを生み出すことで、一から事業を組み立てていくことを目指しています。私は、リテイル市場の開拓に向け、2017年後半はヨーロッパに駐在し、販売子会社やディーラーに向けてリテイル市場が今後の注力市場であることの理解促進を図りました。2018年前半はアメリカに駐在し、販売子会社のスタッフとともに具体的な事業プランの策定とソリューション開発を進めています。ほかにも、アメリカ国内の展示会の視察やユーザー訪問などを通じ、店舗での集客力を高めることができる魅力的なコンテンツの創造に取り組んでいます。これまでのBtoB\*ビジネスから最終消費者をターゲットにしたビジネスへの転換に、海外スタッフもワクワクしています。



**Q** リテイル市場ではどのような業種がターゲットとなっているのでしょうか？

**A** スーパーマーケット、家電量販店、スポーツショップなど、業種はさまざまです。インターネットによる通信販売の普及ともない、実店舗への客足が減少傾向にあります。カスタマイズやパーソナライズサービスによる差別化を行うことで集客力を高めたいというニーズと当社グループのソリューションが合致していることが店舗側の導入の理由の一つ

だと考えています。リテイル市場はヨーロッパを中心に始まりましたが、今後は全世界に展開していく予定です。

**Q** 具体的には、どの製品が使われているのですか？

**A** 現在は、小型UVプリンターやデスクトップサイズの溶剤プリンターが中心です。当社グループでは従来、デジタル彫刻機、メタルプリンターなどを活用した、オリジナルグッズ製作の提案を行ってきました。人間の持つ、「人を喜ばせたい」「人と共感したい」という想いは普遍的なものであり、オリジナルグッズは、そのような想いを具現化したものだと考えています。人の想いをカタチにできるソリューションとして、さまざまな表現を可能にする製品、アプリケーションを開発することで、幅広いニーズに対応した価値提供を行っていききたいですね。

**Q** 今後の抱負をお聞かせください。

**A** 社会環境の変化も激しく、今後の予測が難しい時代です。ヨーロッパの成功事例を世界各地に横展開したら成功する、というわけではありません。それぞれの地域の文化に合ったソリューションとして仕立てた上で提案する必要があります。違う文化を背景に持つ人々が連携することで、新たな価値を創造できるのであり、そのためにも、世界の文化に触れること、自分たちの文化を認識することが重要だと考えています。今後も、新しい視点と構想力を持ち、実行力を武器に新しいことにチャレンジし続けていきます。

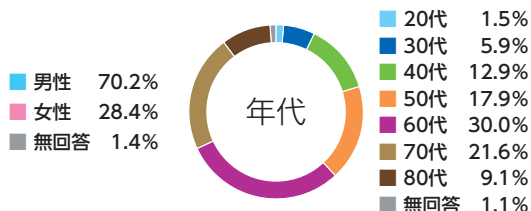
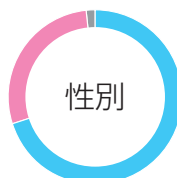
\*BtoB…企業が企業に向けて、商品やサービスを提供する取引。

## 株主さまアンケート集計結果

期 間: 2017年9月9日~2017年12月31日

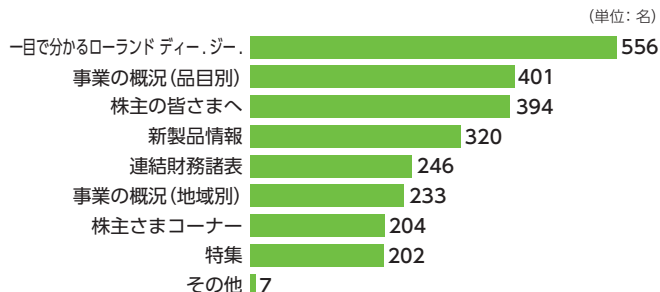
回答数: 1,128名(2017年6月30日現在の株主数 11,119名)

前回のDG Value Newsに同封しました株主さまアンケートの結果の一部をご紹介します。お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございました。いただいた貴重なご意見・ご要望は今後の経営に活かしてまいります。



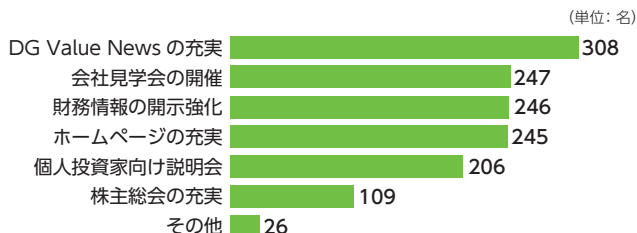
### Q 本誌をお読みになり、興味を持たれた項目をお聞かせください(複数回答可)

「一目で分かるローランド ディー.ジー.」では、当社の強みや中期経営計画の重点課題について説明させていただいています。また本号の特集では、重点課題の一つである新たな成長分野の事業化に向けて活躍する社員をご紹介します。今後も当社の事業活動をわかりやすくお伝えしてまいります。




### Q 当社の IR活動で望まれることをお聞かせください(複数回答可)

「DG Value Newsの充実」を望まれる株主さまが最も多い結果となりました。また、「財務情報の開示強化」として、米国特許権侵害訴訟の経緯や業績への影響についてのご質問を多数いただきました。本号P17にて、提訴から和解までの経緯などについて説明させていただいています。今後も、株主の皆さまからいただいたご意見・ご感想を参考にさせていただきながら、DG Value Newsの充実に努めてまいります。






## 株主さま Q&A 株主さまアンケートにお寄せいただいた ご質問・ご要望にお答えいたします。

 **Q** デンタルの市場規模を教えてください

**A** 歯科技工所はグローバルで12万5,000軒\*、クリニックにいたっては、62万5,000軒\*と推定しています(2016年現在)。デンタル市場における、歯科技工業務のデジタル化はまだ成長段階だと捉え、グローバルでデンタル専門のセールス要員の採用と育成に注力してまいりました。その結果、当社のマーケットシェアは日本では、歯科技工所に限定した場合は約50%\*、米国では、歯科技工所、クリニックを合わせて約25%\*です。当期は3Dものづくり、デンタル分野の発展拡大を目指し、DGSHAPE株式会社を設立しました。DGSHAPE株式会社では、特にデンタル分野に経営資源を配分し、歯科技工所市場のトップブランドを目指すとともに、2020年度の同社売上高100億円を目指してまいります。

※ いずれも第三者調査機関の調査に基づく

 **Q** メールマガジンなどは配信していますか?

**A** 当社IRサイト(株主・投資家向け情報)より、Eメールアドレスをご登録いただいた方へ、IRサイトの更新、決算、その他の重要事項の最新情報をお知らせしています。ぜひ、ご登録ください。

IRメール配信



## 株主優待のお知らせ

株主の皆さまからの日ごろのご支援に感謝するとともに、当社への理解を一層深めていただくことを目的に、株主優待制度を設けております。

2017年12月31日現在の1単元(100株)以上所有の株主さまを対象に、3月16日に株主様ご優待カタログ(3,000円相当)を発送しております。株主様ご優待カタログに記載の有効期限をご確認ください。期日までにお申し込みいただけない場合は、優待権利が無効となり、以後は対応いたしかねますので、お早目にお申込みください。

**株主優待担当** ローランド ディー.ジー.株式会社 総務ユニット TEL 053-424-5041



## 年間IRカレンダー

第1 四半期			第2 四半期			第3 四半期			第4 四半期		
2月初旬 決算発表			5月初旬 第1四半期決算発表			8月初旬 第2四半期決算発表			11月初旬 第3四半期決算発表		
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2月中旬 決算説明会			3月下旬 株主総会			8月中旬 第2四半期決算説明会					

## 和解による訴訟の解決および 特別損失の計上に関するお知らせについて

当社および当社の米国販売子会社Roland DGA Corporation(以下「DGA社」)は、アメリカに本社のあるGerber Technology LLC社(以下「ガーバー社」)から米国コネティカット州の米連邦地方裁判所において米国特許権侵害訴訟(以下「本件訴訟」)を提訴されていましたが、和解の成立により訴訟の解決に至りました。

2007年1月31日および2010年4月12日の公表のとおり、DGA社はGerber Scientific International, Inc.社より、同社がアメリカにて取得している印刷とカットを用いたグラフィック成果を得るための方法および機器に関する特許権1件(1996年7月16日登録、2006年5月2日追加登録)の技術を当社製品が使用しており、同社の米国特許権が侵害されているとして、訴訟提起を受けました。そして、2010年4月9日、DGA社に加え、当社も共同被告として提訴されました。その後、Gerber Scientific International, Inc.社の訴訟上の地位は、社名変更および組織変更を経て、ガーバー社に承継されました。なお、当該特許権の有効期間は2013年7月に満了しております。

当社およびDGA社は、これまでの訴訟手続きにおいて、本製品はガーバー社の主張するような特許権侵害を構成するものではないと主張してまいりましたが、2017年4月18日、相互の互譲のもと、ガーバー社と同意し、訴訟の手続きの過程で和解に至りました。

今回の和解については、当社およびDGA社がガーバー社に対し約12.3百万米ドル(邦貨概算13億81百万円)の解決金\*を支払い、双方がその主張を取り下げ、将来も係争特許に関しては当事者間での紛争をなくすことを内容としております。なお、当社およびDGA社は、和解契約において、当社製品によるガーバー社特許権の侵害を認めているわけではありません。

本和解により、本件訴訟は全て終了し、来期以降の業績には影響はありません。

※当期第1四半期で特別損失に13億81百万円を計上しました。

## ■ 会社概要

商号	ローランド ディー.ジー.株式会社
設立	1981年5月1日
資本金	3,668,700,000円
主な事業内容	コンピュータ周辺機器の製造販売
従業員数	1,255人(連結)

## ■ 役員一覧 (2018年3月23日現在)

取締役社長 <sup>*1</sup>	藤岡 秀 則
取締役副社長	デビッド・ゴワード
常務取締役	橋本 浩 一
取締役	田部 耕 平
社外取締役 <sup>*2</sup>	広瀬 卓 生
社外取締役 <sup>*2</sup>	遠藤 克 博
監査役	中川 正 則
監査役	鈴木 正 康
社外監査役 <sup>*2</sup>	松田 茂 樹
社外監査役 <sup>*2</sup>	本 田 光 宏

<sup>\*1</sup> 代表取締役です。

<sup>\*2</sup> (株)東京証券取引所が定める独立役員です。

## ■ 会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

## ■ 事業所

本社	浜松市北区新都田一丁目6番4号
都田事業所	浜松市北区新都田一丁目1番3号
営業所	東京、名古屋、大阪、福岡
サポートセンター	札幌、仙台、広島

## ■ 連結子会社

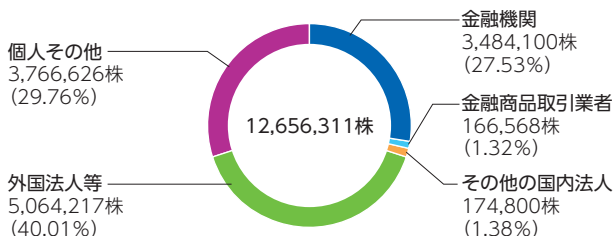
Roland DGA Corporation (アメリカ)  
 Roland DG Benelux N.V. (ベルギー)  
 Roland DG (U.K.) Ltd. (イギリス)  
 Roland Digital Group Iberia, S.L. (スペイン)  
 Roland DG Mid Europe S.r.l. (イタリア)  
 Roland DG North Europe A/S (デンマーク)  
 Roland DG Australia Pty. Ltd. (オーストラリア)  
 Roland DG (China) Corporation (中国)  
 Roland DG Korea Inc. (韓国)  
 Roland DG Brasil Ltd. (ブラジル)  
 Roland DG EMEA, S.L. (スペイン)  
 Roland Digital Group (Thailand) Ltd. (タイ)  
 Roland DG Deutschland GmbH (ドイツ)  
 Roland DG Europe Holdings B.V. (オランダ)  
 Roland DG RUS LLC (ロシア)  
 InClif Corporation (アメリカ)  
 DGSHAPE株式会社 (日本)

## ■ 株式の状況

発行可能株式総数	71,200,000株
発行済株式の総数	12,656,311株
株主数	14,405人

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,098,500株	8.67%
TAIYO HANEI FUND, L.P.	941,400株	7.43%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	911,514株	7.20%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	644,700株	5.09%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	602,800株	4.76%
TAIYO FUND, L.P.	473,400株	3.74%
富岡昌弘	312,600株	2.46%
THE BANK OF NEW YORK MELLON (INTERNATIONAL) LIMITED 131800	311,600株	2.46%
ローランド ディー.ジー.社員持株会	310,954株	2.45%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	194,800株	1.53%

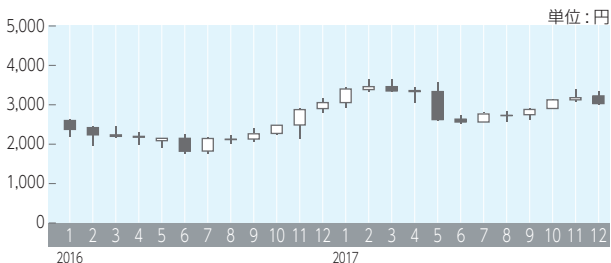
## ■ 所有者別状況



※自己名義株式195株は「個人その他」、証券保管振替機構名義株式8,500株は「その他の国内法人」に含まれています。

※記載比率は、小数点第2位未満を四捨五入して表示しています。

## ■ 株価の推移



## 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日
定時株主総会開催時期	3月中
単元株式数	100株
基準日	定時株主総会 12月31日 期末配当 12月31日 中間配当 6月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告します。
公告方法	当社の公告は電子公告とし、インターネットホームページに掲載します。 www.rolanddg.com/ja/investors/ ※ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社  三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711(通話料無料) [受付時間 9:00~17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く)] ホームページ www.tr.mufg.jp/daikou/
株主優待	毎年12月31日現在の1単元(100株)以上所有の株主さまに、年1回当社が選んだ世界各国の名産品(3,000円相当)を掲載したオリジナルカタログの中から一品を選択していただくものです。
本誌に関する お問い合わせ先	広報IRユニット TEL 053-484-1400
株式・株主優待に 関するお問い合わせ先	総務ユニット TEL 053-424-5041

### (ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## IRサイトのご案内

当社では株主や投資家の皆さまに当社を正しくご理解いただくとともに、最新情報を公平かつ迅速に提供することを目的に、ホームページを活用した情報開示を行っています。ぜひ、当社ホームページ「IR情報」をご覧ください。

今後も皆さまのご意見を反映させながら、IR活動の充実を図ってまいります。



### 最新IRイベント

直近の決算発表日や個人投資家向けのIRイベントへの出展など、IRに関する最新情報をお知らせしています。

### 個人投資家の皆様へ

「事業内容」や「業績」などの基本情報のほか、「当社の強み」や「当社製品の活用事例」などをわかりやすく紹介しています。

### IRメール配信

メールアドレスをご登録いただいた方には、ニュースレターや決算情報などの最新情報をメールにてお知らせしています。

[www.rolanddg.com/ja/investors/](http://www.rolanddg.com/ja/investors/)

ローランド ディー.ジー. IR

検索



### マルチデバイスへの対応

当社の IR 情報をスマートフォンやタブレットからも閲覧いただくことができます。上記 URL に直接アクセスしてご利用いただけます。また、右の QR コードから直接アクセスできます。

